

□令和6年10月15日（火）令和6年度第4回射水市内川未来戦略会議□議事要旨

< 開催概要 >

1 □開催日時□令和6年10月15日（火）13：30～15：30

2 □開催場所□射水市新湊消防署3階講堂

3 □出席者（五十音順）

青井□茂□□株式会社アトム代表取締役

明石□あおい□株式会社ワールドリー・デザイン代表取締役

加治□幸大□□株式会社imizutto代表取締役

木村□広□□□株式会社新湊観光船取締役専務

高木□新平□□株式会社ニューピース代表取締役CEO

中川□めぐみ□株式会社ウオー代表取締役

永谷□亜矢子□立教大学経営学部客員教授

野□□和宏□□富山湾しろえび倶楽部発起人

福田□和則□□株式会社エンジョイワークス代表取締役

牧田□和樹□□一般社団法人射水市観光協会会長

< 議事次第 >

1 □議事

（1）基調報告

（2）意見交換

3 □閉会

1 □議事

（1）第3回会議ふりかえり

【高木委員】

・第3回地域の価値を上げるエリアマネジメントというテーマで青井委員と福田委員にお話いただいた。

・青井委員の世界の事例を参考に、街づくりは長期的な取り組みであり、100年先を見据えて進めるべきといった話があった

・まずは20年後の内川を想像し、世界に誇れる街を目指すことが重要。

・具体的な目標として、内川に3店舗のレストランを開店することが良いのではないかと提案いただいた。

・現実的な出発点として、シェフ・イン・レジデンスの導入を推奨。

- ・福田委員は地域活性化には「ファン×ファイナンス」が重要であり、関係人口と資金の両方を増やす必要があるといった話があった。
- ・点・線・面でのアプローチを通じて、地域の活性化を広げていくべき。
- ・「作るファンド」「育てるファンド」「持続するファンド」と時間軸を整理し、段階的に事業を拡大することが有効。
- ・それらを推進するためには中間支援組織の存在が不可欠であると提案をいただいた。
- ・意見交換の要点では次の意見が出た。
- ・長期的な視野を持ちつつ、具体的なアクションを進めるべきという議論。
- ・住民をどう巻き込み、地域の「マスター」にするかが課題。
- ・しろえび漁の持続可能性や観光だけに頼らない発展が必要とされる。
- ・内川にも中間支援組織が必要であると再確認された。
- ・今回は実経験に基づく重要な示唆のあるプレゼンとディスカッションだった
- ・第4回は、内川という漁港や漁業、海業水産資源や水辺を活用した場所が暮らしに根付いている場所を、どのように観光として活用するのかという話をしていきたい。
- ・この事業を観光に活かすために、どんな課題を抱えているのか。課題にアプローチするためにどんなアクションが必要なのかを議論したい。

【牧田座長】

- ・それでは、本日の会議に入りたい。まず、野口委員、木村委員、中川委員から「水産資源や水辺を活用した観光」というテーマでプレゼンをいただきたい。よろしくお願いいたします。

(2) 基調報告

【野口委員】講演資料に基づき説明

- ・新湊漁業協同組合所属。富山湾しろえび倶楽部を立ち上げたバックグラウンドを持つ。
- ・富山県の水産業についてお話しさせていただく。富山県の漁業は比較的規模の小さな沿岸漁業が主体で、海面漁業における水揚げ量は全国の約1%に留まる。しかし、富山県は「魚の美味しい県」としてのイメージが広く浸透しており、食のブランド力を持つ。県内では三大魚種として「ブリ」「ホタルイカ」「しろえび」がよく知られているが、水揚げ量の上位10位にはホタルイカのみが含まれる。日常的な食卓に並ぶ魚種が中心で、マイワシ、サバ、アジなどが主要な魚種となっている。
- ・富山湾の特性として、日本海には約800種の魚が生息し、そのうち約500種が富山湾に集中している。富山湾は、深さが急激に深くなるため、深層水（約400mの深さ）と表層水（50m未満の水深）との寒暖差が大きく、多様な魚種が育つ独自の環境を形成している。
- ・富山湾における主な漁法を紹介したい。富山湾では、回遊するブリやマグロなどのいわゆる“ヒレモノ”やスルメイカなどが対象の「定置網漁」、ベニズワイガニやバイ貝

などの深海性の魚介類を捕獲する「かご縄漁」、しろえびや甘えび、本ズワイガニなどを捕獲する「底曳網漁」、魚の通り道にカーテン状の網を設置する「刺し網漁」がある。

・新湊漁協でのしろえび漁では、プール制（水揚げ金額の均等分配）というシステムを導入し、過度な競争を避け乱獲を防ぎ持続可能なしろえび漁を目指している。そんな中、自身は「富山湾しろえび倶楽部」を設立し、新湊漁協の持続可能なしろえび漁のPR活動を行っている。

・富山湾しろえび倶楽部では、観光客向けに休漁船を活用し持続可能なしろえび漁を間近で見学してもらう“しろえび漁観光船”を運航しているが、赤字運営が続く課題もある。

・また新湊漁協のしろえびは水産エコラベル「MEL（メル）」を取得し、今後資源保護と漁業の共存をPRしていきたい。

・内川についてふりかえると、内川は新湊漁港区域内にあり、漁船を係留できる水路として利用されてきた。近年では漁船の大型化に伴い、内川での係留が難しくなる一方、内川の風情や景観を活かした観光の利用が進んでいる。

・観光を通じた地域の水産資源の活用としてできることは、富山湾の魚の「美味しさ」だけでなく、その背景にある漁業の歴史や文化的なストーリーを強調し、観光客に新たな魅力を提供することだと考える。

・ホタルイカやしろえびといった有名魚種だけでなく、日常的に消費されている魚種にも焦点を当て、富山湾の多様な魅力を伝えることが必要。

・地元の飲食店で地魚を使った料理の提供。過去にはシロエビ・くりーむ・コロッケのキャンペーンなど、富山の特産魚を活かした観光イベントが成功。今後も地魚を使った独自メニューの展開が期待される。観光客に向けたプロモーションと共に、地元民も楽しめるような食イベントの開催が地域活性化に寄与する。

・内川周辺で地元漁師が水揚げした魚を新鮮な状態で直接販売するイベントができると思う。地元民と観光客双方に魚の新鮮さを体験させ、地域の水産業を身近に感じてもらおう。漁港直送の魚を提供することで、富山の食文化と水産資源への関心を高める機会を創出できると考える。

・地元民と観光のバランスを懸念している。自身も関わっている祭りに関しても、本来は地元住民が楽しむものだと思っている。観光客の方が来てくれることももちろん大切だと思うが、例えばおわらは有名になったことで、観光客で溢れかえり、本来の祭りではなくなったような印象。地元の祭りが今のおわらのようになってほしくはないと感じている。

・観光客の増加が見込まれる中で、内川は地元民の日常の生活空間であることを尊重し、観光との調和を図る必要がある。地域の人々が住み続けやすい環境を維持しながら、観光地としての魅力を高める取り組みが求められると考えている。

【木村委員】講演資料に基づき説明

・結論から申し上げますと、内川の観光の未来として、1日に100～300人程度が、1人1000～3000円を使う「ゆるい観光」が理想と考える。これにより、観光客も地元の人々も無理なく楽しめると考えている。

・欧米人観光客とも共存できると考えており、2年前の水辺の会議で提案された「大きな箱物」の観光施設には否定的な立場を取りたい。

・自分は1980年生まれ、射水市出身。幼少期から内川で遊んできた経験がある。内川沿いは昔は生活感のあるところだった記憶だが、高校卒業時に内川を出て戻ってきたら、綺麗になっており変化に驚いた。道路の整備など行政の影響もあると考えている。

・現在の仕事は観光業で、海王丸パークやクルーズ船の運営、お土産店の管理、河曲駅の指定管理業務も行っている。

・2008年に「内川遊覧」を開始。年間2万～3万人が利用しており、コロナ前には4万人近くの利用者があった。2010年の新湊大橋の開通以降、団体旅行客向けにツアーを企画し、昼競りやカニの食べ歩きツアーが成功した。近年は旅行会社との協力で内川遊覧や内川散策が人気。コースで食べられる茹でたてのカニのリアル感も評判が良い。2023年にはナイトクルーズを定期的開催。夜の獅子舞とのセットプランが観光客や地域住民に好評。現在は台湾の富裕層向けのツアーで、特別な体験を提供する提案も進行中。

・内川の観光資源を生かすため、シェアキッチンや簡単な屋台を活用し、新たな体験提供の可能性を模索している。

・観光課との協力で、新たな体験を通じて内川の魅力を発信し、地域活性化を図る試みを推進。漁船の内川停泊を支援する提案を検討中。内川の風景や雰囲気を守りつつ、漁船が止まるインセンティブを提供する仕組みを考えている。

・ただし、内川の魅力は我々の世代では川だが、若い世代が感じる魅力とは違うのかもしれない。内川の魅力を言語化しきらなくてもよいかもしれない。

・旅行会社のアンケートでは「内川はかわいくて魅力的」と評価されるが、「特にやることがない」「食べ歩きしたいけどお店が開いていない」という指摘が多い。この指摘から、内川には観光客向けの「体験」が不足していると感じている。それを受け、川の駅や新湊で停泊している船を活用し、ボートカフェなどを企画。散策客が立ち寄れるよう、近隣の団子屋やその他の店舗に協力を依頼し、出店を提案中。観光客が散歩中に「引っかけ」ような体験や仕掛けを増やす取り組みを進めている。

・地元の活動として「水辺の開放ウィーク」に力を入れているが、地元の魅力を広く発信することが課題。

・川の駅では、地元のハチミツや食香バラをなどの地域食材を活かした商品を提供

し、射水・新湊の魚をいつでも提供できるように取り組んでいきたい。

・地域の食材、地域の魅力を皆さんの力添えをいただきながら。新しい感動を提供できるように頑張っていきたいと考えている。

【中川委員】講演資料に基づき説明

・現在、富山と東京を拠点に活動しているが、2024年10月末から完全に富山にUターンし、地域活動にさらに注力する予定。これまでベンチャー企業での経験を積んできたが、現在は「魚」をテーマにした会社を経営しており、釣りや漁業に関連する事業を展開している。釣りが趣味で、全国で釣りを楽しんでいる。

・釣りや漁業はそれ自体も素晴らしいし、食、文化、歴史、人など地域との交流を深める絶好の手段であると考えている。そのため、株式会社ウオーという会社を立ち上げ、7年以上にわたり、釣りや漁業を通じた地域活性化に取り組んできた。自身の仕事は「伝える」と「つくる」の2つに大別され、それぞれにおいて具体的な活動を進めている。

・観光客や初心者さん向けの釣り体験を全国に発信しており、観光客向けに釣りプランを企画したり、手ぶらで釣ってその魚を地域で調理してもらうプランなど発見・紹介している。また、漁業に関しては、漁師さんと一般の人々や企業を結びつけ、漁業体験や交流の場を提供している。これらの活動をメディアやイベントを通じて広く発信し、地域の魅力を多様な層に伝えることに力を注いでいる。

・静岡県西伊豆町において、観光客が釣った魚を町が地域通貨で買い取る仕組みを導入した。観光客が釣りを楽しみ、その魚を市場に持ち込むとプロが査定し、その価値に応じた地域通貨を受け取ることができる。この通貨は、地元の温泉や飲食店、宿、土産屋などで利用可能であり、地域経済に好循環をもたらす取り組みとなっている。このような施策は、観光客の減少や少子高齢化といった課題の解決策として位置づけられている。また、子供向けの食育プログラムや企業のチームビルディング向け漁業体験など、幅広いプランも提供している。

・漁師さんたちと連携し、彼らが仕事や地域に誇りを持つためのきっかけをつくりたいと思っている。漁業の接点のない都内IT企業などとも交流し、互いに新たな価値を見出すことを目指している。この活動は、地域の漁業や社会の持続可能性を高めるために重要であると考えている。

・地域の魅力を「見える化」することが、地域活性化において非常に重要であると認識している。具体的な事例として以下を挙げたい。

・高知県の土佐久礼では、漁師さんたちが厳選したカツオを町全体で提供しており、「美味しくなければ返金」という飲食店もある。地域全体がカツオに対して高いプラ

イドを持ち、常に技術を高め合いながらその価値を守り続けている。

- ・自分は北九州の相島の「藍の鯖」の大ファンだ。藍の島の鯖漁師さんたちは、サワラを美味しく提供するための技術を研鑽し、高級寿司店「照寿司」とのコラボレーションにより、世界的な評価を得ている。この事例は、地域の漁業者と料理店が連携し、地域の食材の価値が向上した成功例だと言える。

- ・愛媛県今治の漁師である藤本純一さんは、オーダーメイドの漁獲物を提供しており、日本中のトップシェフたちから直接オーダーを受けている。世界中からフーディーたちが集う地域の寿司店「赤吉」は藤本さんやその魚の魅力を“伝える場”としてプライドを持って仕事をされており、地域ブランドとしての価値も高めている。

- ・以上から本会議での提案は3つある。1つめに内川の魅力の可視化と共有。内川や市港の既存の魅力を誰に、どのように見せるかを決める必要がある。地域の住民や文化を大切にしながら、具体的な未来像をみんなで決定したい。

- ・2つめに新たな連携プレイヤーの巻き込み。重要な連携者として、料理人や宿のオーナーをどう巻き込むかが重要。漁師さんだけでは語り切れない部分を補完する語り部やガイドの役割を果たす人々も巻き込む必要がある。

- ・3つめに既存プレイヤーの洗い出しと強化。既存のプレイヤー（漁業者、料理人、宿）が、十分に語れる状態にあるかを確認し、必要ならばその能力を強化する。地域の未接続な資源やプレイヤーをマッチングさせ、さらなるPRや景観作りに他の関係者も巻き込むことが重要。具体的な行動計画を立て、会議での話を具体的な一步に繋げることを重視。

- ・内川にはすでに魅力が十分あるので、内川の望む未来をしっかりと皆で構想し、本会議ではアイデアを出し合うだけでなく、具体的な一步まで決めきりたいと考えている。

(3) 意見交換

【牧田座長】

- ・野口委員、木村委員、中川委員、プレゼンいただき、お礼申し上げます。
- ・それではただ今のプレゼンで拝聴させていただいたことを踏まえ、皆さんから一言ずつご意見やご感想を頂戴したい。

【福田委員】

- ・プレゼンテーションを聞いて、内容が非常に面白く、知らないことが多かったため刺激を受けた。

- ・次の一步を考える際には、具体的に進めていく必要があると感じるが、その前に「内川エリア」がどういう場所になるべきかを考えることが重要だと感じている。

- ・野口委員の話にもあったが、観光地として多くの人を訪れるエリアでなくても良いと考える人もいれば、そうではないと思う人もいる。その意見のすり合わせが必要だと思う。

・ どのような場所を目指すのか、そのビジョンに向けて具体的な計画を立てることが求められる。最初の一步が何かを見つけることも重要だと考えるが、それをどう決めるかが課題だと考えている。

・ エリアがどのように変わるべきかを決める方法について、自分だけでは決められないと思う。やはり皆さんにとって大事な地元であるため、どのように進めることができるかを一緒に考えていきたい。

【牧田座長】

・ 私も内川の未来の方向性をどのように決めていくのかという部分は、大きな課題だろうと考えて聞いていた。

【永谷委員】

- ・ 福田委員と同様に、内川エリアにはポテンシャルしかないと感じている。何かを始めれば必ず形になると思う。
- ・ 自身がPOTLUCKという地方を良くするアワードの審査員をしていた際、加古川の地域が朝市を立ち上げ、5年間で4000万規模に成長した例が挙がっていた。
- ・ 誰がやるのか、誰のために何をするのか、そしてその支援が重要である。この会議で明確にしていく必要がある。
- ・ 外部から来た自分にとって、内川は初めて見た時に素晴らしいと感じた。特に夕方の景色が印象的だった。
- ・ 「日本のベニス」という表現には違和感を感じる。内川は商業観光地ではなく、そうしたイメージが誤解を招くと思う。
- ・ 漁船が並ぶ風景は非常に価値がある。これをどのように価値化するかが課題であり、再定義が必要だと考える。
- ・ 観光地化よりも、地域の人々が楽しみながら産業を盛り上げるのが重要である。観光の話としてこの会議に呼ばれたが、地域の価値を維持するためには観光地化よりもまず地元の人々が産業を盛り上げる活動する必要がある。
- ・ 漁獲量が減っているのに対して、しろえびの希少価値を伝える必要がある。
- ・ 富山に関わるまでしろえびの価値をあまり意識していなかったが、やはり美味しいと思う。しろえびの価値を広めるために何ができるのか考えるべきだと考えている。例えば、全国で展開しているしろえびの商品はたくさんあるが、産地と結びついて紹介されていることは少ない。すでにある商品で、しろえびの価値を発信できるものは積極的に利用していくべきではないか。
- ・ 富山湾のストーリーを伝える方法について考える必要がある。誰がどう進めていくのか、どう支援をしていくのか、国の補助を受けることも一つの手段だと考えている。しろえびが金沢のものだと思っている人は多い。しろえびについて商品コラボしている企業を巻き込むなどして発信をしていくべき。
- ・ 観光船の運営の赤字や老朽化の問題はあるが、回収して整備し、活用すれば使い道があると思う。船はとともポテンシャルのあるものだと思っている。
- ・ 誰が何をどうやっていくのか、具体的に決めていくことが重要であると再確認した。

【青井委員】

・ 日本に住んでいると地域の愛用資源が当たり前を感じるが、実はその魅力や価値を知らないことが多い。特に富山について勉強している中で、驚くべき発見が多い。

・富山の魚が非常に美味しいことに驚いており、それがわずかな資源で得られる結果であるのは特別なことだと思っている。もっと対外的に広めるべきだと感じる。

・日本人は自身の持っている魅力を100%表現できていないと思っている。良いものはしっかりとアピールし、水産資源については「幻の」や「伝説の」といったキャッチコピーを使って、より多くの人に知ってもらおう努力が必要だと考えている。

・日本は観光において非常に大きなポテンシャルを持っているが、これまで観光業が重工業や製造業に比べて軽視されてきた。少子高齢化、人口減少を考えると、観光は非常に価値のある産業であると信じている。

・自身は不動産業に従事しているが、世襲以上の世界観は作れないと思っている。海洋資源を観光として発展させるためには、行政や地域の協力が不可欠だと感じている。ものづくりの観点からも観光が重要であることを認識している。

・実際に観光資源を訪れて体験することが大切で、カツオなどの地元の特産品がどのようにブランド化されているかを理解してもらう必要がある。

・観光に関する議論が行われる際は、知識を得るだけでなく具体的な行動につながるようにしなければならない。賛否両論が出るのは自然であり、それを受け止めながら進むべきだ。

・観光についてみんなで同じ世界観を持ち、何が良いかを共に考えていくことが重要で、信じる力を持って行動することが必要だと感じている。

・内川の水辺や海洋資源を活用した観光は、さらに広められるポテンシャルがあると感じた。ぜひお手伝いしたいと思える勇気を与えてくれたプレゼンだった。

【加治委員】

・本日のお話を通じて、漁業観光に関するさまざまな視点を伺った。持続可能性が一つのテーマであると感じた。

・以前、射水市の総合計画審議会でも地元漁師の平均年収に関するデータを見た際、現在の人手不足の中で漁業者が増えない可能性を考えたことがある。

・漁業を観光資源として活用することは良いが、現行の漁業市場や流通の問題点をしっかり把握し、改善が必要である。持続可能な漁業でなければならない。

・観光資源としての活用に向けては、根本的な見直しが必要であり、課題解決に向けた取り組みが求められる。

・野口委員が祭りに関する話に触れたが、祭り自体が観光資源としての役割を果たしていると感じている。内川周辺の取り組みを考えると、エリア分けが重要であると思う。

・お祭りをしっかりやっていく人、出稼ぎ的に参加する人たちを区別することが望ましい。曳き子は回数が多いほど喜ばれるだろうと思う。金銭的支援を上手く活用し、参加者をしっかりと分けて運営することが一つのやり方だと考えている。

【明石委員】

・プレゼンした3名の視点や活動に基づいた提案を伺い、とても勉強になった。

・野口さんは同じ町内の方でもあり、素晴らしい活動を続けていただきたいが、活動が赤字になっている現状を何とか改善できないかと考えている。

・宿泊業を営むパートナーを持つ身として、宿とのセットでうまく連携できる方法があれば良いと思っている。

・しろえび倶楽部の集合時間が4時半だが、この時間では参加しづらい人もいないかを感じている。5時半や6時半に変更することで、参加者が増えるのではないかと考えている。

・野口さんの話で印象的だったのは、一つの魚だけでなく、地域の多様な地魚を取り入れるという点であった。地元の事業者として、これをメニュー化して活用したい。

・料理の腕を上げる必要があるため、地域全体で協力し合い、腕を磨いていくことが大切だと思う。

・木村委員のお話にあったナイトクルーズについて、カフェを運営しているが、ナイトクルーズの実施以降、夜の人の流れが変わったと感じている。夜の客層はお金を使う傾向がある。ナイトクルーズを利用するお金を使う客層が増え、カフェの前で待っている間に周辺を回ることが多くなったため、確実に人の流れが変わっていると思った。

・漁師町の風情が内川の魅力であり、漁船や観光船に乗る体験ができることは非常に良い体験だと感じている。

・景観は生活の結果として存在するものであり、意識的に残すことは難しい。漁師町の重要性を心に植え付ける、留めることが大切だ。

・4月に漁師とはあまり関係ない地元事業者発信のイベントを実施した際「内川楽市 漁師町!!!」という名前にした。

【高木委員】

・3人ともとても参考になる報告だった。

・内川に野口委員や木村委員のようなプレーヤーがいること自体が希望だと思う。一方で、内川の魅力を外部にあまり伝えられていないと感じている。

・福田委員の指摘にあったように、このエリアの価値をどう決めるかについては、ここで一度決める必要があると思っている。

・あらゆる角度からの意見が集まっているので、この会議で出た意見をもとに、編集して結論を出すべきだと考えている。

・具体的な行動を決めることが重要であり、ただ気持ちよく議論するだけでは意味がない。

・今日の話と前回の話が繋がっていると感じており、今はまだ内川の価値が景色の美しさでしか伝わっていないと認識している。

・水産業や水辺の文化があって、内川の景色が作られている。現在、多くの観光客が内川の魅力を写真映えする景色として感じているのは、背景にある内川の歴史や文化を体験できる入口が少ないからではないか。

・飲食店を通じて、漁業の魅力を地域の人々と一般の人々が楽しめるようにすることが重要だ。

・行政が主導する形で、そうした飲食店を呼び掛けるのが良いのではないかと考えている。また、朝市のようなテンポラリーなイベントを開催することで、内川を体験できる場を提供できると思う。常設のものを作るのは保健所などの問題があり複雑だが、テンポラリーなイベントであれば逃げ道があるのではないかと感じている。

・新湊漁港のアセットを活用して、内川で体験できるイベントを一つ作ることが重要であり、その事例ができれば、観光客に楽しんでもらえると考えている。

・一発目の具体的なアクションを決めることが、内川の魅力を広げる第一歩だと思っている。

【牧田座長】

・今日報告いただいた皆さんから、各委員の意見を聞いた上で、意見や質問などあれば伺いたい。

【木村委員】

・今日、自身の報告内容は、野口さんの意見と繋がる部分が多いと感じている。一方で中川委員との会話の中で、実は反対の意見もいくつかあったと思っている。

・中川委員は魅力を可視化することが重要だと考えていると思うが、自身は現在の魅力は曖昧なところが大きい。なぜなら魅力は風景や雰囲気などで伝わる部分があり、そこを起点にして地元の人々と共有できる魅力があると思っている。

・しかし、地元で生活していると、良いものが何かを見極めるのが難しくなるので、どうやって地域の魅力をうまく落とし込むかが重要だと感じている。

・次の一步がどこにあるのかはまだ分からないが、そのためにできることは何かを考えていきたいと思っている。

【中川委員】

・自分が必要だと感じた内川の魅力の可視化は、実は木村委員とも近い考えだと感じている。

・自分が行っている魅力の可視化は、具体的なものだけでなく、内川らしさを表現する一つひとつの固有のものという認識。

・以前の会議での発言にあった「なんとなく素敵だね。〇〇らしいね。」という表現にも近いものがあると感じる。例えば、鎌倉の雰囲気のように、過去の良い要素を活かしながら独自の路線で発展させていくことが大切だと考えている。

・鎌倉と言えばこの路線だろう、この範疇で良くしていこうといった「らしさ」の認識が合ってくれば、内川らしさを表現するために好ましい具体的なものがわかってくると思う。そのようなものが、内川らしさが可視化されたものだと認識している。

【牧田座長】

・木村委員と中川委員のやり取りを聞き、福田委員はどう思ったか？

【福田委員】

・野口委員の話の中で、住民が「変わらない内川であってほしい」という意識が大事だと感じた。みんなで内川の良さを表現することが、この意識に繋がると思う。重要な感覚だと思う。

・初めの一步として、皆さんが等身大で内川の良さを表現できることが大切だと考えている。

・また、木村委員が話していた屋台のアイデアが非常に印象的だった。屋台は手軽に始められるため、地域の方々が参加しやすい仕掛けとして適していると思う。例えば中洲のように常設ではなく、まずはみんなが参加できる形で始めることが重要だ。

・このような等身大の取り組みを通じて、内川を守ることに繋がるという意識を皆に知ってもらうことが、最初にやるべきことだと思った。

【高木委員】

・野口委員と話したとき、地元の方は「このままでいい」と感じているが、現実には人口が減少し、観光客が勝手に増えている状況がある。

・このままでは維持できないため、何もしなければこの土地の価値や魅力が知らない人が増え、地域の文化が変えられていってしまう可能性がある。

・福田委員の話から、自分たちの文化や良さを表現することが重要だと感じた。朝市や屋台など、手軽に自分たちの文化を出して表現する取り組みが必要だと思う。

・その活動は自分たちのためでもあり、地域のためでもある。こうした活動が観光客にとってもアクセスしやすい環境を作ることに繋がる。

・漁業がB to Bに偏っているため、外部に商品が流出してしまう現状がある。地元の人たちのために、地域の文化や魅力を自分たちの手で表現していくことが、地域の活性化に繋がる一歩になると強く思った。

【牧田座長】

・今の高木委員と福田委員の発言に対して、野口委員の感想を聞きたい。

【野口委員】

・実は世代によって持っている内川観は違うと思う。ただし、今の内川から感じる魅力は似ているものを感じ取っているとも思う。

・高木委員と話していて、景観を守るのも実は地元の人間の仕事だといわれて、確かにそうだった。

・内川沿いを含めて射水市全体で人口が減少している。私の息子も県外の大学に進学したが、今後は自分の人生を進んでほしいと思う一方で、地元に戻ってきてほしいとも思う。

・本心は戻ってきて欲しいが、胸をはって戻って来いよと今は言えなかった。息子も祭りが好きで、内川がいいと言っている。外に出て行く若者が多い中で、彼らに戻ってきて内川や射水市を盛り上げてもらいたいと強く思う。

・一方で彼らを引き留めるためには何が必要なのか、内川の魅力が心に響くような形で若者を引き戻すことも大切だと感じる。

【明石委員】

・私は内川出身ではないが、富山市内で育ったので、地方や田舎の息苦しさが嫌で、都会に憧れ、大学進学とともに上京した。

・しかし、30歳を過ぎてから富山にUターンした際、富山県内各地の良さを改めて感じるようになった。なので、若者には一度外に出て行ってもらい、その後に内川の魅力を再認識して戻ってきてほしいと考えている。

・最初はあまりわからなくてもいいのではないかなと思う。魅力を饒舌に語るより、自然体で受け入れられることが大切だと思う。

【青井委員】

・私は東京で育ったが、逆に富山に来るとその素晴らしさを実感する。皆さんにとっては少し照れくさいかもしれないが、自分は心から感じている魅力がある。都会で見えてきたものとは違う感覚がある。

・この会議では、皆さんの意見に火をつけることが私の役割だと感じている。少し面倒だと思われるかもしれないが、魅力がある街だと確信している。

・その魅力とは、次の世代がこの町を作っていくべきだという思いから来ている。野口さんが言っていたように、子どもたちの世代が「かつこいい」「素晴らしい」と感じるものを、この会議で見つけられたらと思っている。

【中川委員】

・富山の中で自分の好きな地域がいくつも見つかったからUターンすることにした。そのうちの一つが内川。私は内川の独特の空気感や雰囲気がとても好きで、これを今後もずっと残して行ってほしいと強く思っている。

・先ほど木村委員がおっしゃっていたように、内川沿いに船を停めている方との話の中で、水上バイクの通行によってロープが揺れ、こすれたことでメンテナンス代が意外とかかるということを知った。船のことを考えれば本当は外に移動したいが、停泊の場所を変えてしまうと内川の価値が下がるため、頑張って停め続けているとのことだった。こうした現状を知り、私も考えさせられた。

・このままの状態では未来に残すのが難しいものもあると思う。そのため、例えばみんながメンテナンス代を支払ったり、新しいことを始めたりする必要もあるのではないかと感じている。

・地元の方々が主役であることは間違いなく、彼らが望む未来を実現するために、私たちが何をできるかを真剣に考えたいと思っている。私からも切なる願いとして、その実現に向けて努力していければいいと強く思っている。

【加治委員】

・私は現在、富山市に住んでおり、内川の良さを改めて実感できている。ただ全体的に好きなわけではなく、やはりその好きなポイントが存在すると思う。

・カフェをオープンした際も、川が見えるようなレイアウトにした。他の店で川が見えないところもあり、人それぞれだと思うが、違和感を感じることもある。地域問題は別にして、住民がそれぞれ思う内川の魅力を出し合いながら、世界的な魅力を上乘せするような会話を、このような会議体だけではなく、地元のコミュニケーションをもっと増やす必要があると考えている。自分がカフェを始めたのも、そのような地元のコミュニケーションを増やすためだった。

・もし内川が漁業や観光資源を活用しようとするのであれば、漁業者自身が率先して

行動していく必要があると思う。例えば、富山県が組織的にテーマを掲げて売り出そうとするのであれば、漁師が寿司を握れるようにもなるなど、稼ぐ方法はいくらでもある。

・ただ、内川の魅力はこれだと信じて、主体的に行動できるかが重要だと考える。この会議の役割は、どのようにそのような行動の後押しをできるかを考えることだと思う。

【高木委員】

・内川のあり方について、さまざまな視点からの意見が集まり、立体的に考察が進んできていると思う。

・観光の目的は、地元の人たちのためであるべきで、観光客のためだけの観光ではない。関係人口を集めるため、観光の視点で地元側がを変わるという話から、今日の話で地元のプライドや守りたい風景を重視する必要があるという方向性が見えてきた。観光を通じて変化のチャンスを見出すことが重要だ。

・観光は新しい成長産業のきっかけであり、歴史文化を見つけていくことが継ぐ世代の役目だと感じている。

残りの会議でも、意見を自由に述べ合い、最終的な結論を導き出したい。

【牧田座長】

・回数を重ねるごとに、参加者の意見や視点がより繋がり、相互理解が深まっていると感じている。

・プレゼンのポイントは二つあると考える。1つ目は、漁業や水産業が地域の基盤として存在し、その上に観光や生活がどう関わるのかという問題である。観光と生活が対立するのではなく、掛け算的な関係を築く必要がある。2つ目は、地元での様々な取り組みがほとんど知られていない現状があるため、これらを認知させる仕組みが必要だという点である。

・観光は元々「光を観ること」であり、生活者の行動や日常を観察することが観光の本質である。この観点から観ると、観光と生活は互いに補完し合う関係であるべきだ。

・地元の取り組みが有機的に繋がることで、必然的に地域の生活者や地元の人々が興味を持ち、自然と周りの人たちが集まるようになっていけると考えている。これにより、地域の魅力が増し、観光にも良い影響を与えると感じる。

・今後の会議では、これまでの経験を活かしてさらに精度を上げていくことを期待しているので、次回も継続的な議論を進めていきたい。

3閉会

【事務局】

- ・来月11月23日と24日に射水市内川エリアにおいて、富山県成長戦略カンファレンス「しあわせる。富山」を開催する。射水市主催でも内川未来戦略会議の内容紹介や、内川の未来について語るトークセッションを実施する。
- ・次回の第5回会議は、11月29日金曜日午前10時から、場所は射水市新湊消防署3階講堂で開催する。
- ・会議のテーマは、移住や店舗開業における課題や可能性とし、加治委員、明石委員にプレゼンテーションをいただく予定。
- ・以上で令和6年度第4回内川未来戦略会議を閉会としたい。